

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
報知グランプリカップ	2019/2/20	SIII	船橋	1800m	ハイペース	稍重	能力比較

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	ワークアンドラブ	牡4	56.5	真島	シニスターミニスター	ナスルーラ系	Medaglia d'Olo	ノーザン系	A	A	B	B	A	B	▲	
2	2	ロードフォワード	牡8	56.5	張田	ネオユニヴァース	サンデー系	Kingmambo	ミスプロ系	D	C	C	B	C	C		
3	3	ターピランス	牡6	56.5	森	パイロ	ナスルーラ系	Theatrical	ノーザン系	A	A	B	A	A	B	○	
	4	ヒラボクプリンス	牡9	56.5	山崎	ストラヴィンスキー	ノーザン系	ダンスインザダーク	サンデー系	D	B	C	C	C	C		
4	5	ムサシキングオー	牡10	56.5	和田	キングヘイロー	ミスプロ系	ラストタイクーン	ノーザン系	D	C	C	B	C	C		
	6	ディアデルレイ	牡8	56.5	本田	キングカメハメハ	サンデー系	サンデーサイレンス	サンデー系	D	C	C	B	C	C		
5	7	シュテルングランツ	牡8	56.5	的場文	ステイゴールド	サンデー系	Two Punch	ミスプロ系	B	C	B	C	B	C	△2	
	8	バンズーム	牡8	56.5	御神本	シンボリクリスエス	ロベルト系	サンデーサイレンス	サンデー系	D	A	B	C	C	C		
6	9	コンドルダンス	牡7	56.5	柏木	アドマイヤオーラ	サンデー系	キングヘイロー	ノーザン系	D	C	C	C	C	C		
	10	エンバイアベガサス	牡6	56.5	高松	エンバイアメーカー	ミスプロ系	Distorted Humor	ミスプロ系	C	C	B	B	C	B	×2	
7	11	ゴールデンパローズ	牡7	56.5	吉原	Tapit	ナスルーラ系	Mayakovsky	ノーザン系	B	A	C	B	B	B	△3	
	12	キングガンズラング	牡5	56.5	石崎駿	ストリートセンス	ミスプロ系	バブルガムフェロー	サンデー系	A	C	B	B	B	A	◎	
8	13	ディアドムス	牡7	56.5	岡部	ジャングルポケット	ナスルーラ系	アグネスデジタル	ミスプロ系	B	B	B	B	B	A	△1	
	14	ハセノパイロ	牡4	56.5	矢野	パイロ	ナスルーラ系	ティンバーカントリー	ミスプロ系	B	B	B	B	B	B	×1	

隊列図	見解	ラップタイム
シュテ ワーク タービ エンバ ムサシ キング ディデ ハセノ ロード ゴール ヒラボ デイド バンズ コンド ハイペース	<p> 昨年はJRAから転入してきたリッカルド、ロワジャルダンのワンツーフイニッシュ。3～5着馬もキャプテンキング、オメガスカイツリー、ケイアイレオーネとすべてJRAデビューで、元JRA所属馬が掲示板を独占したレース。近年の南関東はJRAからの転入馬が以前よりも増えており、前回の南関東古馬重賞・金盃は、1着◎サウンドトゥルー（元JRA・G1馬）、2着△1シュテルングランツ（元JRA・オープン馬）、3着○ワークアンドラブ（元JRA・オープン馬）と1～3着馬はすべて元JRA所属だった。今年の報知グランプリカップでは、JRAからの転入初戦を快勝したゴールデンパローズが出走。そのほかにもワークアンドラブ、シュテルングランツらが元JRA所属になるが、このレースに関しては生え抜きの地方所属で1頭狙ってみたい馬がいる。それでは予想にいきましょう。 </p> <p> 本命はキングガンズラングの能力を信じたい。3歳時は能力に身体がついてこない感じだったが、古馬になってから期待通りの本格化。昨年是一年明けから夏の京成盃ランドマイラーズまで無傷の5連勝。（以下省略） </p>	

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	ワークアンドラブ	▲	能力通りなら上位争い必至だが、左回りの経験が浅いこと、荒山調教師のトーンがどうも上がってこないことはやや不安。安定感を考えると、タービランス>ワークアンドラブになるだろう。		
2	2	ロードフォワード		南関東に転入後、4戦2勝と結果を残しているが、その2戦はJRA500万下止まりだったハクサンベルと接戦。距離延長は問題ないものの、能力的に重賞では足りないのでは。		
3	3	タービランス	○	前走報知オールスターカップでは2着に敗れたが、早めに動いて目標になった分の敗戦と見てよく、決して悲観する内容ではない。振り返れば、ダートグレードを除くダート戦では【10.4.1.0】とすべて3着以内に入っている馬。単純に3着以内に入る馬を1頭挙げると本馬が最も相応しいだろう。		
	4	ヒラボクプリンス		元JRAのオープン馬も南関東に転入後、オープン特別で苦戦している現状。今回は相手関係が大幅に強化。上位争いは難しい。		
4	5	ムサシキングオー		年齢の影響か重賞では歯が立たなくなってきた。今回も苦戦必至だろう。		
	6	ディアデルレイ		JRA時代には17年マーチステークスで2着に好走した実績があるものの、南関東に転入後、マイルグランプリ11着、勝島王冠9着と結果を残せず。どうも走る方に気持ちが向いていない。		
5	7	シュテルングランツ	△2	前走金盃が狙い時ではあったが、行き切れる強みはやはりある。南関東に転入後は長距離ダートで活躍しているが、JRA時代には東京ダート1400mで勝ち鞍がある馬。2600m→1800mの距離短縮だからといって侮ることは出来ない。		
	8	バンズーム		転入3戦目の前走チバテレ盃で5着と見せ場を作ったが、勝ち馬ベンテンコソウが前の馬を潰し、漁夫の利的に追い込んできただけ。着順ほど評価できる内容ではない。今回は相手関係も大幅に強化。上位争いは難しいだろう。		
6	9	コンドルダンス		かつては未脚堅実な差し馬として重賞路線でも活躍していたが、昨年は【0.0.0.5】と見せ場なし。ピークを明らかに過ぎた印象。近走はオープン特別でも足りておらず、苦戦必至だろう。		
	10	エンパイアベガサス	×2	2年前の報知グランプリカップ勝ち馬。当時から能力が衰えているわけでもないで、スタートを決めて前々で流れに乗れば、巻き返しがあってもいいだろう。前走金盃は流れに乗れずの敗戦。決して力負けではない。		
7	11	ゴールデンバローズ	△3	転入初戦がさすがの走りだったが、これまでダート1600m【5.1.0.7】、1700m以上【0.0.1.5】でマイル巧者。前走大師オープンは川崎1600mの10頭立ての少頭数で好走できる条件がそろっていた印象が強い。距離延長、相手強化、人気を考えると、積極的に買うべき馬ではないだろう。		
	12	キングガンズラング	◎	総の国オープン2着、チバテレ盃6着とまさかの敗戦を喫しているが、総の国オープンは差し遅れ、チバテレ盃に関しては中間の調教がやや緩く、完全な2走ボケと割り切っている。今回は調教時計が前走時と比べて格段に良好。馬体重も絞れているはずで、本来の力を発揮できると見ていいのではないかな。		
8	13	ディアドムス	△1	約1年近くスランプに陥っていたが、前走報知オールスターカップは見せ場のある4着。ひと叩きされて状態が上向いていたようで、3戦目でもう一段上のパフォーマンスを見せられれば、馬券圏内の好走があっても不思議ではないだろう。		
	14	ハセノパイロ	×1	前走報知オールスターカップは休み明け、出遅れ、大幅な馬体重増でノーカウントの一戦と捉えることもできるが、血統的に早熟だった可能性はある。直近2走の敗戦で人気やや落ちるので無理に嫌う必要はないが、3歳時のイメージを引きづらない方がいいかもしれない。		